

# 鳥取西道路の遺跡を掘る!

第48号 2013年4月24日

遺跡からは、表面を黒くした土器（黒色土器）のお椀が出土することがあります。鳥取西道路の調査でも高住平田遺跡で出土しています。

今回は、この黒色土器について紹介します。

平成25年度に発掘調査を行う遺跡の位置



- |                    |                         |
|--------------------|-------------------------|
| ① 桂見鍋山遺跡 (鳥取市桂見地内) | ⑥ 金沢坂津口遺跡 (鳥取市金沢地内)     |
| ② 東桂見遺跡 (鳥取市桂見地内)  | ⑦ 常松大谷遺跡 (鳥取市気高町常松地内)   |
| ③ 良田中道遺跡 (鳥取市良田地内) | ⑧ 常松菅田遺跡 (鳥取市気高町常松地内)   |
| ④ 松原田中遺跡 (鳥取市松原地内) | ⑨ 下坂本清合遺跡 (鳥取市気高町下坂本地内) |
| ⑤ 松原田中遺跡 (鳥取市松原地内) |                         |

## 黒色土器とは？

黒色土器は、土器の表面を煙で燻したもので、お椀の内側のみを黒く燻したもの（内黒）、内側と外側の両方を黒く燻したもの（両黒）などがあります。これらは奈良時代から平安時代にかけて（8世紀から12世紀ごろ）、近畿地方を中心に各地で生産されていたようです。

鳥取県下では東部、中部、西部で出土していますが、その数は少なく状況がよくわかりません。しかし、9世紀ごろには生産が行われていたようで、米子市にある古市宮ノ谷山遺跡では、黒色土器とともに土器をつくる際にでたと思われる粘土のくずがまとまって出土しています。

鳥取西道路に関係する調査でも高住平田遺跡で10世紀後半ごろの黒色土器のお椀が出土していますが、地元で生産されていたとみられるもののほかに、摂津地域（現在の大阪府や兵庫県）から持ち込まれたと考えられるものが出土しています。黒色土器は地産地消を主とした日用雑器であり、商品として地域を超えて流通することはないため、人とともに移動してきたと思われます。

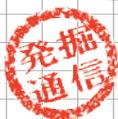


高住平田遺跡から出土した黒色土器

(公財) 鳥取県教育文化財団  
調査室

〒680-1133  
鳥取市源太 12 番地

TEL : 0857-51-7553  
FAX : 0857-51-7550  
メールアドレス :  
tottori-kyobun@kyobun.  
sakuratan.com



今年も発掘調査の準備が始まりました。今年はどうな成果をお伝えできるのでしょうか。

調査の成果、そのほかさまざまな情報をホームページや通信でお知らせしますので楽しみに。

鳥取県教育文化財団 調査室

検索

# 鳥取西道路の遺跡から歴史をさぐる

～平成25年度の発掘調査～

平成25年度は、昨年度に引き続き桂見地区で2遺跡、良田地区で1遺跡の発掘調査を予定しているほか、新しく松原地区で2遺跡、金沢地区で1遺跡、常松地区で2遺跡、下坂本地区で1遺跡の合計9遺跡を発掘調査する予定です。

昨年度の調査では、弥生時代の<sup>せき</sup>堰や古墳時代の水田跡、古代の<sup>もっかん</sup>木簡や<sup>ぼくしよ</sup>墨書土器といった文字資料など数多くの発見があり、この地域の昔の様子が少しずつわかってきました。今年度も新たな発見によって、この地域の歴史がより明らかになると期待しています。今後の発掘情報をどうぞお楽しみに。

## 東桂見遺跡、桂見鍋山遺跡

東桂見遺跡は、とっとり出合いの森の近くにある遺跡です。昨年度の調査では、弥生時代から古墳時代の水田跡や住居跡などがみつかりました。今年度は、継続して縄文時代の調査を行います。桂見鍋山遺跡は、東桂見遺跡から東側に尾根をひとつ隔てた場所にある遺跡です。昨年度の調査では、東桂見遺跡と同じ頃の水田跡が見つかりました。今年度は9月から調査する予定です。



桂見鍋山遺跡の水田跡

## 良田中道遺跡

昨年度の調査では、縄文時代から弥生時代の大きな流路、古墳時代から中世までの水田の<sup>あぜ</sup>畦や水路などがみつかりました。今年度は縄文時代の調査を予定しています。



\*調査遺跡周辺を南からみたCG画

- |          |              |           |
|----------|--------------|-----------|
| ① 桂見鍋山遺跡 | ④ 松原田中遺跡(1区) | ⑦ 常松大谷遺跡  |
| ② 東桂見遺跡  | ⑤ 松原田中遺跡     | ⑧ 常松菅田遺跡  |
| ③ 良田中道遺跡 | ⑥ 金沢坂津口遺跡    | ⑨ 下坂本清合遺跡 |

\*CG画像は、国土地理院が公開している航空写真と基盤地図情報(標高データ)を合成したもので、高さは2倍に強調しています。

## 松原田中遺跡(1区)

平成22年度の調査では、弥生時代から古墳時代のムラの跡や水田跡がみつかり、当時の生活ぶりの一端が明らかとなりました。今年度も新たな発見が期待できそうです。



足の踏み場もないくらいの土器

## 松原田中遺跡、 金沢坂津口遺跡

湖山川を挟んで東側に松原田中遺跡、西側に金沢坂津口遺跡があります。試掘調査では古代の木簡がみつかりました。今年度の調査でも古代を中心に、この地域の歴史が明らかになることが期待されます。

## 常松大谷遺跡、 常松菅田遺跡

常松菅田遺跡、常松大谷遺跡は、河内川東岸にある遺跡です。試掘調査では、古代の土器や溝、稲の植物化石がみつかりました。今年度は、古代の集落跡のほか、水田跡がみつかることが期待されます。

## 下坂本清合遺跡

下坂本清合遺跡は、河内川の西岸にある遺跡です。試掘調査では、中世の素焼きの鍋や皿、陶磁器の破片などが出土しています。今年度の調査では、当時の集落の様相などが明らかになることが期待されます。